

攻撃及ばずも、 7 試合ぶりの完封!

駒澤大学 0-0 慶應義塾大学

光った守備力で完封に貢献した
DF 川岸 (撮影:佐藤 亮)

9 月 23 日 13:50 江戸川区陸上競技場

駒大 0 (0-0) 0 慶應大
(10 位) (0-0) (6 位)

得点者 (7人)

KOMAZAWA

GK② 檜山昇吾(2)
DF② 砂川太志(4)
DF③ 川岸裕輔(1)
DF④ 林堂 眞(4)
DF⑤ 三澤祥馬(3)
MF⑤ 山崎紘吉(4)
MF⑦ 碓井鉄平(2)
MF⑧ 奥村 情(3)
(80 分)⑨ 小牧成亘(1)
MF⑥ 濱田 宙(4)
(88 分)⑩ 友廣壮希(2)
FW⑪ 湯澤洋介(3)
FW ⑫ 山本大貴(2)
(65 分)⑬ 肝付将臣(4)

S U B

GK① 松浦和巳(4)
DF⑨ 大木 暁(1)
MF⑩ 江川昇吾(4)
MF⑭ 板倉直紀(1)

MANAGER

秋田浩一

KEIOU

GK① 中川翔太(4)
DF④ 黄 大城(4)
DF④ 松岡 淳(3)
(71 分)⑤ 保田隆介(1)
DF⑤ 笠松亮太(4)
DF② 田中奏一(4)
MF⑥ 藤田息吹(3)
MF⑬ 増田湧介(1)
MF⑯ 川久保 理(3)
(59 分)⑭ 山浦 新(3)
MF⑦ 日高慶太(4)
(88 分)⑮ 森田達見(3)
MF⑩ 河井陽介(4)
FW⑪ 風間荘志(4)

S U B

GK① 峯 達也(1)
DF⑬ 松下純土(2)
MF⑧ 山浦公裕(3)
FW⑨ 大塚尚毅(4)

MANAGER

須田若正

[シュート]9:9 [GK]17:13 [CK]3:6 [直接FK]26:9
[間接FK]5:4 [OS]5:2 [主審]福岡靖人 [観衆]約 450 人

警告(C)/退場(S)

[駒]35 分:砂川太志(C) [慶]42 分:松岡 淳(C)
[駒]77 分:碓井鉄平(C) [慶]57 分:河井陽介(C)
[慶]91 分:笠松亮太(C)

※データの左側が駒大

光る守備力 苦しい攻撃力

前期、セットプレーから三得点を挙げ勝利を収めた慶大との一戦、前半早々から駒大は積極的な試合運びを見せる。2 分、湯澤が得意のドリブルでペナルティーエリア内に侵入しようとする、相手 DF はたまたまファール。林堂の FK はバーをかすめ惜しくも得点には結びつかず。その後も湯澤がドリブルで崩しにかけりシュートまで持っていくが、これはキーパーにセーブされる。徐々に慶大のパスサッカーが機能し始めると、左サイドを起点に駒大陣内に攻め込み始める。20 分には右サイドを突破されると堪らずファール。失点には繋がらなかったが、危ない位置で FK を許した。25 分には再び左サイドから、29 分には中央からの突破を許しシュートを打たれるが、林堂を中心とした DF ラインで堅守をみせる。ボランチとして奮闘した山崎は「監督からこの 1 週間は守備への意識を強く持って練習しろ。」と、チームに言葉を投げかけられたことを証し、その成果をみせた。その後も、堅い守備でゴールは許さず、試合は 0-0 と均衡した状態で進む。すると 38 分、再び湯澤が相手 DF を抜き去りシュート。さらに 42 分には、センターサークル付近で FK を得ると林堂が無回転シュートを放つ。前半終了間際には、湯澤のシュート性のボールを山本が合わせるがゴールならず。決断力を欠く前半ではあったが、勝利への執念を見せた。

後半、いきなり試合は動く。慶大の流れのようなパスワークが試合再開直後、隙のある駒大に攻め込みゴール前でシュートを放つ。しかし、初スタメンを任

された GK 檜山はこの日抜群の冴えを見せた。このシュートをしっかり抑え、慶大に流れを握らせない。すると、前半同様に早々から駒大が攻勢を見せる。この日、常に攻撃の牽引し続ける湯澤が相手の右サイドを突破しペナルティーエリア内からシュート。52 分には相手ペナルティーエリア近くから山本のコンビプレーで最後は湯澤がシュートを放つ。攻めの形は見せる駒大だが、最後の決断力を欠く。主将の林堂は試合後に「守備は良かった。けど、苦しいときのシュートを良くしないと」と、嘆いた。そこで 65 分、駒大ベンチが動く。山本に替えて肝付を投入し流れを変えようと試みる。持ち味を生かし駒大は得点を狙うが、どうしても相手のゴールを揺らすことは出来ない。80 分に小牧、88 分には友廣を投入し糸口を探る。その後は試合を優位に進め、ロスタイムまで猛攻をしかけたが、駒大に最大のピンチが訪れる。試合終了間際にカウンター攻撃を許すと、ゴール前でフリーでのシュートを許してしまう。これを檜山が決しのプレーで守り切ると試合終了。均衡した一戦はスコアレスドローで勝ち点を分けあう結果となった。この日の駒大ベストプレイヤーとも言える檜山は試合後「あれはたまたま。」と振り返ったが、そのプレーの価値は絶大だ。秋田浩一監督も、「もともとから反応のいい選手だった。よく止めた。」と、評価した。

改善の兆しがみえた守備を基盤に、得意の縦に早いサッカーへと繋いでいき、今後の白星を期待したい。次なる課題は得点力。安定したチーム状況で上位進出を狙いたいところだ。

(鎌田航平)